国際交流基金日本語教育紀要

【論文原稿書式】 ※字詰め：「文字数42字×行数33行 / 余白：上下左右30ミリ」とする。

第19号（2023年）

*※原稿のカテゴリーを記入*→*（例）*【教育実践論文】

**メインタイトル（MS明朝・太字・14ポイント）**

**－サブタイトル－（MS明朝・太字・11ポイント）**

*※投稿時は、筆頭執筆者・共同執筆者名は記載しないこと*

〔キーワード〕　キーワード5語以内（MS明朝・10ポイント）

〔要　旨〕

　要旨本文（和文400字以内、MS明朝・9ポイント）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

行番号は「1．」の見出しから始め、最後まで連続番号にすること。

方法：[**ページレイアウト**] タブの [**ページ設定**] で [**行番号**] をクリック

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1.（半角スペース1字）大見出し（MSゴシック・11ポイント）

　本文：原稿執筆時のフォントについては、原則として、和文論文の場合は本文（英数字含む）をMS明朝とし、英文論文、及び英文要旨の場合は本文をTimes New Romanとする。

文字サイズは10.5ポイントを基本とし、表題・キーワード・要旨・見出し・注記・参考文献は「論文原稿書式」の指示どおり文字サイズを適宜変更する。図表については、フォントはゴシック体、文字サイズは適宜とする（国際交流基金 2021:1）。

1.1（半角スペース1字）中見出し（MSゴシック・10.5ポイント）

　本文（和文「MS明朝」・英文「Times New Roman」・10.5ポイント）・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1.1.1（半角スペース1字）小見出し（MSゴシック・10.5ポイント）

　本文（和文「MS明朝」・英文「Times New Roman」・10.5ポイント）・・・・・

表1（全角スペース1字）タイトル（MSゴシック・10.5ポイント）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

表内文字：MSゴシック

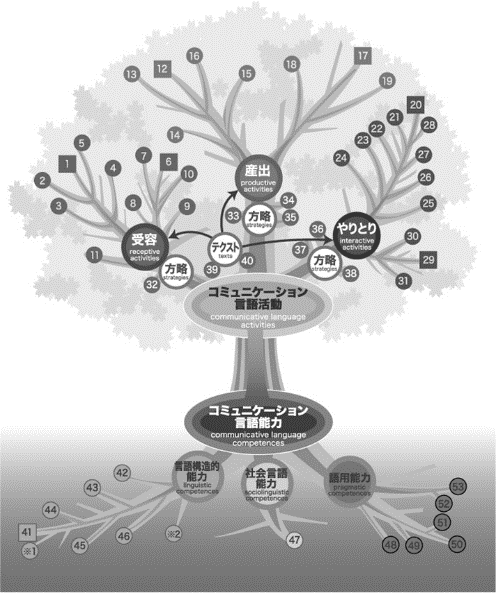


図1（全角スペース1字）タイトル（MSゴシック・10.5ポイント）

図表掲載の際、執筆要領4.に従うこと。また、図表で示している事柄について本文で説明を行なうこと。ウェブサイト画像を掲載する場合は、サイトの著作権、画像に写り込んでいる人物の肖像権にも留意する。

〔注〕

（1）文末注は、左上に番号を付し、MS明朝・9ポイントで記載すること（左右余白は変更不可）

〔参考文献〕

参考文献は、MS明朝、9ポイントとし、執筆要領に従って記載すること（左右余白は変更不可）

以下は例である（執筆・投稿の際には削除すること）

来嶋洋美・柴原智代・八田直美（2012）「JF日本語教育スタンダード準拠コースブックの開発」『国際交流基金日本語教育紀要』8、103-117

久保田美子（2006）「ノンネイティブ日本語教師のビリーフ－因子分析に見る「正確さ志向」と「豊かさ志向」－」『日本語教育』130、90-99

国際交流基金「日本語教育 国・地域別情報 英国（2019年度）」

＜https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2019/uk.html＞（2021年4月9日）

国際交流基金（2020）「海外日本語教育機関調査（2018年度）」

＜https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey18.html＞（2021年4月9日）

国際交流基金（2016）『まるごと　日本のことばと文化』（中級1　B1）、三修社

国際交流基金（2010）『国際交流基金教授法シリーズ第11巻 日本事情・日本文化を教える』、ひつじ書房

スカーセラ, R.C.・オックスフォード, R.L.（1997）『第2言語習得の理論と実践－タペストリー・アプローチ－』牧野高吉（監訳）、松柏社

ネウストプニー, J.V.（1979）「言語行動のモデル」南不二男（編）『講座言語3　言語と行動』、33-66、大修館書店

Council of Europe（2020）*Common European Framework of Reference for Languages : Learning, teaching, assessment Companion Volume*

＜https://www.coe.int/en/web/common-european-framework-reference-languages＞（2021年4月9日）

Council of Europe（2008）『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』 初版第2刷 吉島茂・大橋理枝（訳、編）、朝日出版社

Bachman, L. F. (1990). *Fundamental considerations in language testing.* Oxford: Oxford University Press.

Cummins, J. (1991a). Language development and academic learning. In Malavé, L. & Dequette, G. (eds.), *Language, Culture and Cognition: A Collection of Studies in First and Second Language Acquisition*, pp. 161-75. Clevedon, Avon: Multilingual Matters.

Cummins, J. (1991b). Interdependence of first- and second-language proficiency in bilingual children. In Bialystok, E. (ed.), *Language Processing in Bilingual Children*, pp. 70-89. Cambridge: Cambridge University Press.

Ellis, R., Tanaka, Y. & Yamazaki, A. (1994). Classroom interaction, comprehension, and the acquisition of L2 word meanings. *Language Learning*, 44: 3, pp. 449-491.